

年間テーマ ～ 平和を目指してともに歩もう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

今月のテーマ

子どもたちは大人をみている

タイトル: 「つなぐ手と手」
作: 堀田 ^{ほった} 碧乃 ^{あおの} (当時 13 歳)

第 1 回シナピス主催絵画コンテスト
ピース賞受賞作品

カトリック幼稚園の副園長 デンニ・ワユディ

貝塚カトリック幼稚園児 4 人が最後の送迎バスで帰宅する前の時間は、私にとって興味深い経験でした。なぜなら、約 45 分間、子どもたちを楽しませ、一緒に遊んであげなければならないからです。私がお休みの日は、他の先生方に私の居場所を聞いていました。私は、副園長として、彼らに歓迎され、期待されているとうれしく感じました。教室の掃除の関係で、私は 2 階の別室で彼らと遊びます。この教室には、私が持っていて幼稚園の子どもたちにプレゼントした大きなくまモン人形があります。この 4 人の組には名前がなかったので、「くまモン組」と名付けました。くまモン組では、自分の意思で自由に遊んだり、動いたりできるようにします。この自由さの中でも、楽しく遊びながら日常生活に必要なことを身につけるには、特別な配慮が必要です。4 人のうちの 1 人は、朝、幼稚園に来て、よく暗い顔をしているのですが、くまモン組で私に会うと、とても嬉しそうに、ワクワクしながら私に近づいてきます。ある日のくまモン教室で、くまモン人形を持ってポーズをとってもらうと、この写真のようにワクワクするような自由な姿を見せてくれました。くまモン組で一緒に遊んだ喜びは、帰宅後、お母さん方にも伝わりました。中には、くまモン組のことをよく理解していないお母さんもいました。そこで、彼らのお母さん方にお会いしたときに、くまモン人形と一緒に写っている写真を見せながら説明しました。このように、子どもたちと一緒にいて、遊び相手として受け入れ、責任をもって自由を与えることで、子どもたちに安らぎと喜びを与えることができるということは、私にとって非常に貴重な経験です。私の意図を押し付けず、時には退屈させるようなことでも、大切なことを学ばせることは、彼らが本当に望んでいることなのです。お迎えのバスを待っている間、子どもたちの遊びの時間は短く、慣れ親しんだ遊びの中で、とても楽しく、興奮した様子です。このくまモン組の中で、子どもたちが友だちと自由に遊ぶことで、平和と喜びを感じられるように願っています。



ニュースレター 目次

- 1 巻頭言
- 2 なみはや教会こども基金報告
- 3 入管法
- 4 小林聖心学院際にて
- 5 障がい者委員会より
- 6 時報7月号より
- 8 ボランティアさんにきいてみた
- 9 ホームだより
- 10 祈りの集い報告
- 11 ガリラヤの風
- 12 みんなのけいじばん
- 13 あとがき

チラシ・ご案内

- ・シナピスの風
- ・シナピス工房 サマーカタログ
- ・7月の祈り
- ・わすれないあきらめないカレンダー
- ・「沖縄慰霊の日にあたり」
- ・入管難民法の改悪に抗議し、難民・移民と共に生きる教会声明
- ・入管法改定案可決成立を受けて
- ・こどもの里より緊急支援のお願い
- ・関西いのちの電話公開講座
- ・堺原爆展 -核なき世界へ-
- ・堺平和のための戦争展
- ・「ぬくもり」ニュースレター

年間テーマ

～平和を目指してともに歩もう～

身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。剣を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ 26:52)と言われたイエスの生き方に倣い、暴力に打ち勝つ強い信念をもち、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまと一しょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

映画「さとにきたらええやん」上演会及び「こどもの里」館長の講演

於)カトリックなみはや教会 2023年5月7日(日)13:00~16:30

カトリックなみはや教会信徒 かじ みつひろ 梶 実裕

大型連休の最終日、当日は大雨の降る天気だった。正直、少しもったいない。その雨の影響で客足が遠のいた事実よりも、この機会、共に体感することを逃した人を本当にもったいないと感じた。聖堂での上映と、荘保共子さんの講演は、現場に特殊な熱^{あつ}を呼び込んでいたからである。

大阪市西成区釜ヶ崎、「日雇い労働者の街」と呼ばれてきたこの地で45年以上にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。

この作品では「さと」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で向き合う職員や親たちに密着しつつ、子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と関わり向き合いながら、ともに立ち向かう姿が丁寧に描かれていた。



その実体描写のもと、監督が足掛け7年にも及ぶ取材を行ってきたことの積み重ねである。荘保館長曰く、きっかけは、ある日、監督が「さと」の前を通りかかった時に、子どもを追いかけて飛び出してきた当時の職員のアフロヘアと、幼い子どもの姿に「ここは何?」と思ったことだった。そこから館長と子どもたちと、この映画の長い付き合いがはじまった。

内容については、とても文章で子細に伝えきれない。思春期ならではの子どもの悩みが率直に、次々と現れては場面が進んでいく。表情や息遣い、セリフの間、すべて演じられているのではなく、本当に生活の一部が切り取られている。日常の一コマではなく、生き様の一瞬^{すく}が掬い取られている。あたかも、自分が西成で今その場にいるかのような錯覚を何度も覚えた。

エピソードをここで語るよりも、見ていない人には本当に映画で確認していただきたい。何よりも、子どもたちの成長と「さと」からの巣立ちの場面。見送る職員の涙に、完全に映画を見ている自分が同調していた。「さとにきたらええやん」、このタイトルは見終わった時に何倍もの意味に感じられた。

子どもに対し、温かく優しい荘保さんの思いは、第2部の講演で熱を帯びた。活動が様々な団体に支え続けられたと感謝を伝えつつも、子どもを取り巻く関係者に、時に厳しく、時には考えの相違も越える愛をもって接する、まさに人間関係のエキスパートであり、芯の強さとぶれない思いは聞いていて、勇気が奮い立つ思いであった。

今回、子どもたちの実例を書くことを取って控えた。それはこれからも続いていく、目の前でいつも起こりえる出来事について、過去形にしない、見逃さないように「いつも目を覚ましていなさい」と主が呼びかけていると感じたからである。



難民問題に出合って

小林聖心女子学院 12年 土井 裕美子 どい ゆみこ

この度は学院祭においてシナピス工房で作られた作品を紹介することができ、とても嬉しく思っております。ありがとうございました。

シナピスの活動に関心を持ったのは、私が10年生の時でした。それ以前から難民問題に関心はあったものの、どこか遠い存在に感じてしまっていました。しかし、シナピスのビスカルド篤子さんに日本で暮らしている難民の方や難民認定を待っている方の実際のお話を伺い、難民問題の深刻さを改めて実感することができ、小さいながらも何か私にできることはないかと考えるようになりました。また、そのときにシナピスホーム（カフェ）の存在を知りました。

そして実際に訪れ、日本にいられている方々とお話をしたい、体験を伺いたいと思うようになり、難民問題に関心を持っている友達を誘って伺わせていただきました。ホームの雰囲気はとても明るく皆さんが笑顔で冗談やお話をされている姿をみて素敵な場所だなと感じました。

また、丁度クリスマスシーズンだったため、クリスマスのポストカードが紹介されているのを目にしました。手作りで作られた可愛く素敵な柄が印象的でホームから帰ってからは、もっと沢山の人の見ていただくことはできないかとどこかで紹介をすることはできないかと考えるようになりました。シナピスと相談して紹介の許可をいただき、先生方にも許可をいただくことができたので、急遽ではありましたが学院祭紹介をする機会を設けることができました。

学院祭前には作品を作られているボランティアの方々にお話を伺うなど、一つひとつの作品に込められた大切な思いを受け取りました。そして、出来る限り多くの人の方に届けることができるようにと、ポスターの制作、放送文章を考えたり、先生方と沢山打ち合わせをしたりと、学院祭当日に向けて沢山準備をしまっていました。そうして迎えた学院祭前日には、大きな声で呼びかけたりシナピスについて紹介をしたりと、今私にできることを一生懸命努めました。

1日目は参加者が小林聖心の生徒のみだったため、紹介した作品は少なかったのですが、チャームなど特に小学生が嬉しそうに作品を手にとって見ている姿を見てとても嬉しくなりました。2日目には児童、生徒の保護者の方や外部の方もいらしたため、1日目よりも多くの作品紹介ができました。大人の方々はシナピスの活動に関心をもってくださり、私がシナピスについて知っているのはわずかな知識しかありませんが、できるかぎりお伝えしました。シナピスについて1人でも多くの方に知っていただき、難民問題に関心をもって身近に感じていただくことができたならとても嬉しく思います。先生方にシナピスで作られた作品を紹介したいとお伝えした時には、学院祭まで3か月しか残されておらず、きちんと準備ができるのか、責任をもって紹介できるのかと心配をおかけしました。しかし、学院祭後には好評をいただき、先生方も一体となって難民支援に関わることができ良かったと感じています。

高校を卒業すると今回のように様々な企画をするなかで色々な助けを受ける機会は少なくなってしまうと思います。ですが、今回私が得たもの学んだものはとても大きく、これからの活動につなげていくことができればと思っております。ありがとうございました。



シナピス工房の作品紹介を企画して

小林聖心女子学院 12年 まみや 間宮 もとか 素佳

今回私たちは学院祭でシナピス工房のグッズを紹介するという夢が叶い、とても感謝の気持ちでいっぱいです。シナピスに直接訪問し、打ち合わせをする時期もギリギリだったにもかかわらず、お伺いした時にはすでにシナピス工房の皆様で様々なグッズを作ってくださいっていてとても感動しました。

〈準備期間〉

学院祭の企画の許可を得て以降、土井さんと2人でどのようにしたら来場する方にシナピスの活動に興味を持っていただけるか、またそれと同時に難民の方の現状なども知っていただけるかをしっかりと考えながら、企画を進めていきました。今回は自分たちで提案する企画だったため、グッズをどうやって紹介するのか、ご寄付のお金集め、お部屋のどこに何を設置したら来場者が見ながら歩きやすいかなど、多くのことが初めて体験することであり、シナピスの方と連絡を取りながら、学校の先生にたくさんの支援をしていただきました。

〈学院祭当日〉

当日は公演などに出る時間以外はシナピスの展示会場でご寄付集めなどを担当しました。1日目は生徒の日だったので、正直あまり難民について知らない子は来ないかと思っていたのですが、お手伝いの人数が足りなくなるほどたくさん来てくれました。ある子は初めて知ったけれどシナピスの活動にとっても興味をもって、学院祭後にもいろいろと調べていました。中高の先生方も来てくださり、グッズを買ってくださり、私たちがシナピスや難民のことを説明させていただきました。このように少しでも自分たちの力で難民について知っていただけで良かったと思いました。2日間とも大変多くの方が来てくださり、本当に嬉しかったです。特に小林聖心のために作ってくださったチャームは10個限定だったのですぐになくなり、私も欲しかった！などの声も聞きました。

今回の経験は自分に大きな影響を与えるものであり、将来自分のために役立つと改めて感じています。難民申請者は今年一番多いとニュースで見ましたが、それでも日本では難民の受け入れが他国に比べて非常に少ない状態です。また、あまり難民について知る機会がなく、多くの方がその現状を知りません。このような機会をいただけた私が、これからの未来のために学んだことを生かしていけるようにしたいと思います。

七転び八起きの、草の根運動

シナピス事務局 ビスカルド あっこ 篤子

6月9日、出入国管理及び難民認定法（入管難民法）の改定法案が、参議院本会議で可決成立しました。法案の内容と問題点については、同封の『入管難民法の改悪に抗議し、難民・移民と共に生きる教会声明』をご覧ください。

私たちは仮放免や難民申請中の人たちと一緒に、ネット中継で参議院法務委員会にて法案が強行採決されるありさまを見ていました。「私たちどうする？これから」と腕組みする人、「間違いなく収容所で死ぬ人が増えるよ」と叫ぶ人、落胆と失望で部屋には重苦しい空気が流れました。

翌日、法案が成立すると、動揺した難民の方々から不安と相談の電話が次々に入るようになりました。

◇市民は最後まで声をあげた



入管難民法は、ほとんどの日本人にとって馴染みのない法律ですので、いくら「人の生死に関わる問題だ」と声を上げても、「世論の大きなうねり」になるところまでなかなかいきません。

2年前に同じ法案が出たときには、名古屋入管でスリランカ人女性が亡くなる事件が起き、反対の声が噴出したので法案は見送られましたが、今回は与党だけでなく一部の野党が賛成に回り、あっけなく法律が成立してしまいました。

それでも国会審議が進むにつれ、法案に反対する声在全国で大きく広がってゆきました。2年前に集めた反対署名は10万筆でしたが、今回は20万筆を超えましたし、法案に反対する

デモやスタンディングは全国各地で行われました。東京の渋谷では7千人もの市民がデモ行進をしました。ただ、残念ながらNHKも大手マスコミ各社もこれを報道しませんでした。ハロウィーンで渋谷に6千人がはしゃげば大ニュースですが、「難民を守って」と叫ぶ7千人のデモ、国会前に集結した4千人の声が報道されることはなかったのです。それにもめげない市民の意識の高さや目の当たりにして、私は凹んでいる暇はないと何度も励まされました

◇入管難民法案に反対した人びとの声

「東京へ出向いた時に国会議事堂まで行って、シットイン行動に参加した。若者の多さに驚き、連帯する気持ちがより強くなった。」
(Iさん)

「史上最悪最低な政府と補完勢力を見ると、確かにこのような結果になることを感じてはいた。それでも私は集会やスタンディング、デモ行進に参加した。誰でも、どんな人でも一人ひとりを大切にしたい気持ちは強かったし、これからも変わらない。どんな厳しい状況でも諦めないし、常に希望は持ち続ける」(Oさん)



◇そして・・・強制送還の危機にある当事者の声！

「確かに大変な事態になりましたが、開かれる道は必ずあるはず。信仰と希望は楽観主義を生みます。さあ、明日を楽しみに！」

視覚障がい者にとって思うこと

カトリック障がい者連盟委員会委員
カトリック芦屋教会所属 ^{うちの}内野 ^{なおき}直幸

外出すると、いろんな場面に出合います。今回は三つの出来事について書きます。

一つ目は、最近数年ぶりに一人で歩く機会がありました。緊張しましたが、何とか目的地までたどり着きました。しかし、数年前と明らかに違う点に気が付きました。

私は歩道を歩いているので、基本的には危険はありませんが、横の車道を走る車のスピードがとても速く、怖いぐらいでした。もし自分が歩道を歩いている何かにつまずき、車道に倒れたりしたらどうなるかと思うとぞっとしました。なぜ、それほど車を飛ばしているのでしょうか？歩行者や周りの方たちのことも考えた思いやり運転が大事だと感じましたし、町には視覚障がい者も歩いているのでそのことも十分考えてほしいと思いました。

二つ目は、皮膚科に受診した後、薬局に行って薬をもらうのですが、皮膚科の周辺には二つの薬局があり、初めてのガイドヘルパーは私がいつも行くところとは別の薬局に私を連れて行きました。ところがその薬局の薬剤師さんがとても優しく私に「この薬の使い方がわからなかったら電話をください」とおっしゃってくださり、間違っただけで案内された普段行かない薬局に行って良かったと思いました。薬剤師さんは視覚障がい者の私のことを思って親切にしてくださりうれしかったです。

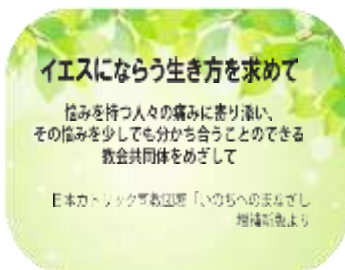
三つ目は、歌を歌うイベントに参加した時のことです。私はガイドヘルパーと参加したのですが、イベントが始まる前にピアノ伴奏される方が、歌のことや歌い方などを丁寧に説明して下さいただけではなく、イベントの途中で、何回かピアノから離れて「大丈夫ですか？ちゃんと歌えますか？歌えなかったらハミングでも、ラララでも良いのでお願いします」とおっしゃってくださり、イベントが終わった後、そのピアノ伴奏の方は「ピアノ伴奏はどうでしたか？」と尋ねられましたので「良かったです」と私は言いました。そうしたらそのピアノ伴奏の方は「そうですか。それはうれしいです」とおっしゃってくださいました。

視覚障がい者である私への配慮がとても素晴らしいと感動しました。視覚障がい者にとって、配慮があることほどうれしいことはありません。私も、皆さんの親切の中で活動していることに感謝しております。



意岐部中学校夜間学級の見学会に行つて

社会福音化部 正義と平和担当 松浦 謙



「外国人住民基本法・人種差別撤廃基本法」の制定に取り組む、外国人との共生をめざす関西キリスト教連絡協議会(関西外キ連)は、長年、外国人の人権を守る取り組みに携わってきた。この活動の一環として、今年の1月24日、日本に住む外国人住民の実態を学ぶための現地学習会が行われた。

この学習会の目的は、東大阪市の意岐部中学校夜間学級を訪問見学し、学んでいる外国人たちの生の声を聴くというもの。プロテスタント教派から4名、カトリックからは社会福音化部門担当のデン二神父、エリック神父とともに参加した。

意岐部中学校夜間学級は、2019年に発足。現在77名の生徒が学ぶ。年齢は10代から70代と幅広い。授業料は無償。日本語の能力に応じて4つのクラスに分かれる。平日午後5時15分から8時50分まで4時限の授業が行われている。生徒たちは昼間は仕事や家事に従事している。教科は表現(国語)、数学、社会、理科、音楽など通常の義務教育における中学校レベルの教科に準ずる。試験をして成績をつけたりすることはないが修了証は得られる。

受講する生徒は皆日本に永住するか長期滞在する外国籍の人たちで、中国、ネパール、韓国、フィリピン、タイ、パキスタン出身であった。見学当日は30名ほどの生徒が来校してきた。見学者たちは2時限目の各教室での授業を参観した。鉛筆とノートをもって教科書を読みながら熱心に学ぶ姿が見られた。



3時限目には生徒との意見交換会が行われた。生徒たちからは「こうして勉強が出来ることに希望が持てる」と感謝する声が聞かれた。かつての中国残留孤児で日本に帰国したが、教育を受ける機会がなかったという高齢女性もいた。孫ともっと日本語で話し合えるようになりたいという。「自分のいのちがかかった勉強です」という人もいて、ここに通いながら日本で生きていくための必要な知識を得ることの苦労がうかがえる。ただ、日本に来て種々の差別や嫌がらせを受けたことも事実だ。「外国人だからということで雇ってくれなかった」「そばに座らず避ける者がいる」などの率直な声も聞かれた。

見学を終えたエリック神父は、自らも留学生として来日し、苦労して日本語とその文化を勉強した経験がある。夜間中学を支えてくれる教師やスタッフに心から感謝したいと感想を語った。このような取り組みが全国レベルで広がっていくことが望まれる。

夜間中学 ～学びのセーフティーネット “わたしも頑張れば夢を実現できる”



夜間中学の始まりは、戦後の混乱期にあって昼間に中学校に通えなかった子どもたちが、夜に学ぶために作られた公立中学の「夜間学級」である。戦争、貧困、病気、不登校など、様々な理由で、義務教育を終えられなかった人たちの「学び直し」の場として 2016 年「教育機会確保法」によって制度化された。国際人権規約に「すべての者に教育機会を与えること」が定められている。これらを踏まえ、外国人の子も日本人児童と同様に夜間中学に無償で受け入れるようになったのだ。

調査によると、夜間中学は現在全国に 36 校あるが大阪府には 11 校が設置されており全国でトップである。6年前の実態調査では全国で約 1700 人が学んでいる。このうち約8割が外国籍の生徒という。2015 年の統計では中国人が 797 人、韓国人が 284 人、ベトナム人 101 人。しかし、小中学校に通う年齢なのに、どこにも就学していない可能性がある外国籍の子は約 8000 人いるとされる。

入学条件は 15 歳以上で、中学校を卒業していない人や、ほとんど通ったことのない人が、勉強したい気持ちさえあれば年齢や国籍を問わず誰でも入れる。授業料や教科書代は不要。授業は週5日、内容は中学校で学習する教科を勉強する。修学旅行、学習発表会、運動会などの学校行事もある。全過程を修了すると中学校卒業資格を得られる。勉強についていけないか不安がある人のために習熟度別のクラス編成もなされる。

夜間中学は、外国人にとって、いわゆる「日本語学校」ではない。さまざまな教科学習を通して、日本社会や日本との接点を作り、日本人との関係性を作れるようになることが目的である。長年夜間中学につとめた講師の方はこう述べる。「生徒たちにとってここは日ごろ日本社会で感じる疎外感、孤独感から解放される大切な居場所、自分たちに希望を持たせてくれる所です。彼らが夜間中学で学びたい最大の理由は、皆、日本語が分かるようになりたいためと答えるが、ここでの学びを経て“わたしも頑張れば夢を実現できる”と、より勇気をもつようになります。また『表現』『民族』『文化』の授業で自分たちのルーツを大切に意識が高まり、自分に対する誇りと自信を持つようになります」。

わたしたちキリスト信者は、イエスの福音に基づいて「国籍を越えた神の国」の実現を目指している。それは神の子であるすべての人が、ひとしく大切にされ、よろこびと幸福感をもって生きることの出来る世界に他ならない。夜間中学はまさにそれにつながる意義深い取り組みである。

自分のいのちが
かかった勉強です！



ボランティアさんに きいてみた

シナピスでは多くのボランティアさんが、お手伝いをしてくださっています!!
このコーナーでは、ボランティアさんの紹介や、奉仕活動の様子を掲載していきます。

工房ボランティア

マリア ベルナデッタ なかむら さちこ 中村 祥子さん
(枚方教会レジオ・マリエ
「聖マリアの汚れなきみ心」会員)



Q1. どのようにしてシナピスでボランティアを始めましたか？

シナピス工房の募集を目にして、私にもできる奉仕があるかしらとシナピスを訪問しました。
快く受け入れてくださって嬉しかったです。

「針を持つ時間も祈りの時間です」とレジオ・マリエ指導司祭が仰っていました。



Q2. シナピスでは、どんなボランティアをしていますか？

工房では手芸品づくりをしています。

移住者の方や職員、ボランティア仲間に教えて頂きながら作品を完成させています。不器用ながら出来上がる作品には愛着を持っています。

Q3. ボランティアをしてみてどうですか？

シナピス工房に通うようになってまだ1年ですが、人との繋がりの中で私の居場所となりました。楽しく喜びがあり感謝です。
ここでの奉仕は、ありがちな奉仕内容の比較や、それに対する嫉妬はありません。気持ちよく、移住者、職員、ボランティアとともに過ごしています。



Q4. ボランティア中の出来事や、何かエピソードを教えてください！

まだ1年の新参者なので語れるエピソードはないですが、このことは自信を持って言えます。

「ステキな出会いがありますよ」

先日ボランティア仲間とシナピスホームのカフェにお邪魔しました。

移住者の方たちにおもてなしを受け、ゆっくりと過ごしました。

色々な苦悩があると思います。そんな中でも笑顔でカフェにくる人たちをもてなし、憩いの場をつくってくださるみなさんに私は教えられることがあります。

シナピス工房で出会ったみなさんに感謝しています。



シナピスホーム便り



やまだ なおこ
山田 直保子

5月下旬の日曜日、私たちはシナピスホームとして、夙川教会のバザーに出店させていただけることになり行ってきました。在留特別許可を求める子どもたちと歩む会「ぬくもり」を立ち上げた N さんたちが道筋を作ってくださいました。

私たちは何度かいろいろな場所に出店してきましたが、火を使わないお弁当として販売をする形式は初めてでした。とにかく完成されたお弁当が傷まないよう細心の注意を払い準備をしました。食品はとにかく常温が一番傷むので冷やすしかありません。しかも屋外でしたので、氷もすぐに溶けてしまうことを想定し、みんなで考えていきました。

前日に買い出し、下ごしらえ、スプーンや袋などの準備、保冷剤や大量の氷を作ったり、発泡スチロールの保存箱をスーパーでもらってきたり、パンフレットの用意など、バザーに参加しない難民移住者にもお手伝いをしてもらいました。



当日は朝早くから調理開始。傷まないよう粗熱が取れたら急速に冷やしていき、スリランカ人がつくるカレー50食、スリランカのサバと卵のコロッケ「カタレット」50個、ブラジル人がつくるココナッツプリン60個を用意していざ夙川へ。

会場についてみると、ちゃんとテントを用意してくださっていて、炎天下は避けられ、場所も入口付近で特等席！

ミサを終えたお客様が一番に目に入る場所であったことに

感謝し、お弁当と工房商品を並べて、さあいよいよ開始！ N さんが前もって宣伝して下さっていたため、あっという間にお客さんが集まり、みんなで大忙し。なんと45分で完売！！

カタレットはサバと卵が入っているので、アレルギーがないかの説明もちゃんとできていて、各自釣銭も用意し、何度か経験してようやく手際よくできるようになりました。お客さんとコミュニケーションを取って笑い合ったり、写真撮影したり、本人たちにとって、「ここに必要とされている人たち」ということが実感できたのではないかなと思います。

前日も夜遅くまで、当日も朝早くから準備して疲れているのに、お客さんと直接やりとりできる喜びは、二人の表情から汲み取れました。まぶしいほどのキラキラした笑顔と、興奮して多弁な振り返り話。その笑顔を見ていると私まで疲れが吹っ飛んでいきます。

夙川教会ではコロナ渦以降、お弁当販売という初めての試みで様々な問題をクリアして下さり、陰ながら応援してくださいました N さんはじめ皆さま、この場を借りてお礼申し上げます。



6月の祈りの集い



第21回シナピス主催「オンライン祈りの集い～世界平和のためにいのる～」を6月8日(木)に行いました。

6月23日(金)は沖縄戦犠牲者の霊を慰め、世界の恒久平和を願う「慰霊の日」です。今回は「沖縄のために祈る」をテーマに那覇教区信徒山田圭吾^{やまだけいご}さんに沖縄の現状を分かち合ってもらい、長崎壮^{ながさきそう}神父(クラレチアン会)からメッセージと祈りの導きをして頂きました。

沖縄で山田さんがアメリカ軍人の方に「戦争の前後では・・・」と話したら、「どの戦争の後ですか?」と言われたそうです。私たちは「戦争」というと第二次世界大戦を思い起こしますが、アメリカではその後も多くの戦争があり、今でも沖縄の米軍基地からも戦地へ向かう軍人がいるそうです。これを聞いても沖縄と戦争の関係が途切れていない事がよくわかります。

また、山田さんはある沖縄女性の話をしてくださいました。息子さんが父親の国籍を選択しアメリカの軍隊に入隊、湾岸戦争に出征され帰らぬ人となりました。政府は戦後77年間戦闘によって亡くなった日本人はいないと言いますが、彼のルーツをたどれば、沖縄人の血が流れています。「国籍はアメリカでも日本国の血が繋がる人が亡くなった事実があるのに、本当に私たちは憲法9条で守られていると言えるのでしょうか」と山田さんは問いかけました。

毎年5月15日、沖縄では「平和行進」が行われています。何千人も集まって沖縄で行動していても全国で大きく報道されることはありません。「沖縄から声をあげても全国に届かないのであれば、1か所10人でもいいから、各自がそれぞれの場で一斉に行動するのはどうか、全国各地にあるカトリック教会を通じて何か行動をおこすことができないか」と山田さんは提案します。

70名近い人が今回の集いに参加してくださいました。この70名がそれぞれ10名誘って一斉行動を起こせば、それだけでも700人になります。

祈りの導きを下された長崎神父も、「私たちにできることは沖縄の現状を伝えていくこと」だと言い、「6月23日の沖縄慰霊の日は司祭としても伝えていき、心と行動の連帯をしていきたい」と沖縄への思いを語ってくださいました。戦没者のため、また未来を祈りと行動で変えられる勇気を願い最後にヨハネ・パウロ二世の平和を求める祈りを唱えて集いを終わりました。



次回は7月13日(木)20時半～30分間

テーマは「船員とその家族のために祈る」

お話は 濱田 壮久神父(横浜教区清水教会)

Zoom ミーティング ID : 761 071 2034

パスコード : 123456

投稿欄 “ガリラヤの風”



眼が不自由になって思うこと

むらき まさやす
村木 正靖

2007年10月、「白杖を持たないと危ないですよ。」と眼科医に言われ、私の視覚障がい者としての人生が始まりました。

網膜色素変性症と言う少しずつ進行し、やがては失明してしまう恐れのある眼の難病です。当時は父と共に起業した会社で国内海外を問わず動き回っていました。自分はハンディーキャップを持っているのだから人の3倍努力しても調度いくらいだと思って仕事をしていました。

ところがだんだん眼が不自由になってくるとともに仕入先を国内に絞ったり、現場の仕事を社員に任せていかざるを得なくなってきました。そんな事をしているうちに少しずつ業績が下がり、得意先の倒産、社員の不祥事などが相次いで起こりました。

その頃は真っ暗なトンネルの出口が見えない状況でした。「もうあかん」とだけは言うまいと決め、白杖を左右に振る度に「嬉し、楽し、ありがとう」と心の中で毎日唱えていました。

2018年、身体障害者手帳が1級になった事を境に会社をたたみ、視覚障がい者でしか味わえない人生を送ろうと翌年に盲学校の門を叩き、マッサージ師になりました。

私は今まで沢山の事を積み上げて来ましたが、少しずつそして決して少なくない物を手放す事となりました。

しかし、何かを手放す度に私の前に新しい世界が開けて来た様に思えます。

出口の見えないトンネルの中でもがき苦しんでいましたが、気が付くとトンネルはいつの間にか消えていました。

視覚障がい者にならなければ、絶対に選んでいなかった第二、第三の人生です。

今はA型事業所で他の障害をお持ちの方々と共にマッサージの仕事をしています。

自分のこの手によって、人に喜んでいただける仕事です。

マッサージをして差し上げた後、笑顔になっていただいた時、本当に心から幸せを感じるのです。

夢を見ればいい、こうありがたい自分がいてもいい。だけど夢が破れても、こうになりたい自分になれなくても、また夢を探せばいい。必ず「ありがとう」と言える新しい人生が訪れるのだと信じています。

白杖を持って街を歩いていますと、たくさんの方々が声を掛けてくれます。こんなに親切な方が世の中にはたくさんおられたのかと気付かされます。そして同時に自分の眼が良かった時代に白杖を持った人や何か困っておられる方に対して、私は声を掛けていただろうかと考えますと、恥ずかしくなるのです。

これも視覚障がい者になって気付いた事なのです。

物事には必ず明るい面と暗い面が存在するのだと思うのです。

私は明るい面だけを見ていこうと思っています。

たとえ何が起ころうともこの世は美しいし、素晴らしい。

そんな風に思える心を持ちたいといつも願っています。



坂村 真民(さかむら しんみん)の詩に出会い、思ったこと

カトリック仁川教会 土器屋 香代子

「あとから来る者のために」

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を 川を 海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし 我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとから あとから 続いてくる
あの可愛い者たちのために
みな それぞれ 自分にできる
何かをしてゆくのだ

仏教・天理教・プロテスタント・カトリックなど、宗教・宗派を越えて「非武装平和の喜びを実現するため」に活動されている市民団体の活動報告の中で、真民が92歳の時に書かれたこの詩と出会いました。

坂村 真民(本名・昂^{たかし})さんは、1909年に熊本県荒尾市で生まれ、2006年12月に愛媛県にて97歳で亡くなられた“癒しの詩人”と呼ばれる方です。

砥部町にある「坂村 真民記念館」の資料によると、「8歳の時に父親が急逝し、どん底の生活の中、母を支え、神宮皇學館を卒業後、熊本で教員となり、その後朝鮮に渡って師範学校の教師に。終戦後、朝鮮から引き揚げて愛媛県に移住。高校の教員となり国語を教えた。厳しく自分を律して、つましい生活を信条として生き、周りに困った人や悲しみに暮れている人を見ると、そっと手を差し伸べ、共に悲しみ、共に生

きてゆくことを生涯貫いた生き方だった。92歳で砥部町の名誉町民に選ばれた。一遍の生き方に共感し、「いやしの詩人」と言われる。毎朝午前零時に起床し、近くの重信川のほとりで地球に祈りをささげるのが日課だった。その詩は小学生から財界人にまで愛され、詩碑は全国・外国にまで建てられている」

世界と仲良くし、非武装の平和な社会を築くために「世界の宝・憲法9条」を守りたいと力を尽くしている人たちがいれば、「平和な国にするために軍事力を増強し憲法改正をする」と主張する人もいます。膝を突き合わせて多くの方と「分かち合い」ができればいいなと思いつながら、一般社会では昔から「政治的・宗教的な話題」についてはタブー視され、敬遠されがちで、好意的に受け入れられる状況にはなっていないのが実情です。問題提起をしたり、行動を起こすと、どんな状況になるかを想像して、黙ってしまう自分の勇気の無さにモヤモヤした気持ちのまま過ごすこともあります。



坂村 真民記念館外観

「二度とない人生だから」(抜粋)

二度とない人生だから
戦争のない世の実現に努力し
そういう詩を一篇でも多く作ってゆこう
わたしが死んだら
あとをついでくれる若い人たちのために
この大願を書き続けてゆこう

仏教、キリスト教、その他の宗教も、一人ひとりの「いのち」を大切にするこは共通していると思います。「平和」を語る時、何より一人ひとりの「いのち」のことを優先しなければならないと思います。

ある牧師さんが次のように言うておられました。「平和を守ることが牧師の本業です。しかし、牧師一人だけでなく教会全体がそういう発想にならなければと思います」と。

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5・9)のですから。

みんなのけいじばん



大阪教区神学生志願者 たなかひとし 田仲仁さん音楽生活 15 周年記念感謝コンサート

シナピス主催の祈りの集いでも楽曲を提供して下さっている田仲仁さんが、音楽生活 15 周年を記念して感謝コンサートを開かれます。

日時:8月11日(金)13時開演(12時15分開場) 入場無料
 場所:守口エナジーホール 〒570-0038 守口市河原町 8-22
 予約・連絡先:Tel 090-8368-0728

✉ hitoshi230811@gmail.com

座席には限りがあります。ご希望の方は上記連絡先までご連絡をお願いいたします。

♪♪ 田仲仁さんからメッセージ ♪♪

当日は募金をしています。集まった募金は全て、トルコ地震とウクライナへの義援金、また世界の恵まれない子どもたちに送ります。みなさんの気持ちが世界の貧しい人たちを救います。よろしくお祈りいたします。



シナピスより

☆通訳ボランティア募集☆

下記の通訳が出来る人を探しています。

◇エジプトで話されるアラビア語

◇スーダンで話されるアラビア語

※通訳料要相談

難民申請者の聞き取り通訳です。

関心のある方はシナピスまでご連絡をください。

◆毛糸・クリスマス柄布地寄付のお願い◆

シナピス工房では、クリスマス作品の制作に、必要な材料を探しています。分けて頂けるものがあれば、シナピスまでご連絡をお願いします。

◇毛糸:細～中太

みどり、あか、しろ、あお

◇クリスマス柄布地:

30 cm四方以上のもの



連絡先:カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス

Tel:06-6942-1784 FAX:06-6920-2203 ✉ sinapis@osaka.catholic.jp

